



一隅を照らす運動総本部だより
No. 35



第13回心のつどい in 比叡山	2
一隅を照らす運動推進大会	3
一隅を照らす運動ニュース	8

一隅を照らす運動ホームページアドレス
<http://ichigu.net>

第13回 心のつどいin比叡山

7月14・15日 比叡山延暦寺会館



第十三回「心のつどい in 比叡山」(一隅を照らす運動総本部主催)を比叡山延暦寺会館で開催。七月十四日、十五日の一泊二日の日程で、一般公募で募った男女十八名が参加した。

開講式では、横山照泰一隅を照らす運動総本部長導師による法楽があり、その後、延暦寺会館担当者より坐禅止観などの説明があった。

第一講では「法華経のこころ」と題し、高川慈照延暦寺一山最乗院住職による法話があり、法華経の成り立ちから説かれている心の持ちようなどを話され、参加者がありがたい法話に聞き入っていた。

第二講では「古典落語ちりとしてちゃん」「仏は君をホツトケない」と題し、落語家露の団姫師による落語があり、会場は大いに盛り上がった。

翌日は、早朝五時半より根本中堂にて坐禅止観を実施した。その



後、大書院庭の清掃、延暦寺会館でのお写経を實踐し、それぞれが熱心に取り組んでいた。

今回研修会では、祖師先德鑑仰大法会期間中ということもあり、慈覚大師御廟へ参拝し、「毎回新しい気持ちで受講している。一年に一回の自分をみつめなおす大切な機会となっている。また比叡山の奥地にひっそりとある慈覚大師御廟へお参りできて良かった」と感想を述べていた。

■ 一隅を照らす運動推進大会

近畿大会

近畿教区本部（高岡保博教区本部長）では、平成二十六年五月五日に奈良県高取町の宗泉寺（石川智海支部長）を会場に、近畿教区一隅を照らす運動推進大会を開催し、檀信徒約百名が参加した。



一隅を照らす運動総本部だより



はじめに、高岡教区本部長導師のもと宗祖伝教大師報恩法要が厳修され、その後、高岡教区本部長より開会の挨拶、続いて横山照泰一隅を照らす運動総本部長より祝辞があった。

今大会では、NPO法人住民の力理事長野村孝治氏を講師に迎えて「高取城と藩主植村氏」と題して講演があり、日本三大大山城に数えられる高取城の壮大さなど、往事を偲ぶ話に、参加者は

耳を傾けていた。

三岐大会

三岐教区本部（森喜良教区本部長）では、平成二十六年六月一日に岐阜県大垣市の圓興寺（神藤誠真支部長）を会場に三岐教区一隅を照らす運動推進大会を開催し、檀信徒約四十名が参加した。

第一部では、教区内寺院住職ら十九





名出仕のもと法要が厳修された。法要後、森教区本部長、横山照泰一隅を照らす運動総本部長よりそれぞれ祝辞があった。

第二部では、池田智鏡九州西教区普光寺住職による法話と筑前琵琶演奏が行われた。池田師は自身のこれまでの経験を元に冗談を交えながら、人との繋がりや縁の大切さを説かれ、参加者は熱心に耳を傾けていた。

最後に同教区本部より浄財二十万円が横山総本部長に寄託され閉会となった。

東海大会

東海教区本部(中村廣文教区本部長)では、平成二十六年六月七日に愛知県名古屋市の名鉄ホールを会場に、東海教区一隅を照らす運動推進大会を開催し、檀信徒約千名が参加した。



はじめに、東海教区仏教青年会の声明公演があり、参加者は聞き入っていた。その後、中村教区本部長より開会の挨拶、続いて横山照泰一隅を照らす運動総本部長より祝辞があった。また、永年にわたり一隅を照らす運動を実践してきた会員に総本部長賞が授与された。

第一部では、阿曾沼慎司京都大学IPS細胞研究所顧問が「IPS細胞の

実用化に挑む「現状と課題」と題して講演された。阿曾沼氏は「IPS細胞は万能であるが、それゆえ倫理問題が出てくる。宗教界も深く関わって欲しい。」と語られ、参加者は興味深い様子で聞き入っていた。

第二部では、宮本祖豊延暦寺一山円竜院住職が「十二年籠山行〜生命を見つめる静の行〜」と題して講演され、出家をしてから十二年籠山行までの、壮絶な修行内容を語られた。

最後に、参加者全員で東日本大震災犠牲者に一分間の黙祷を捧げ、閉会となった。また、今大会では同教区本部より百万円の浄財が、一隅を照らす運動地球救援事務局へ寄託された。

東京大会

東京教区本部（杜多徳雄教区本部長）では、平成二十六年六月十一日に台東区の浅草公会堂で東京教区一隅を照らす運動推進大会を開催し、約千二百名の参加者が集まった。

第一部では、福聚教会による御詠歌と天台聲明音律研究会による声明、天台雅楽会による和楽器演奏、神田秀順上野輪王寺門跡門主お導師のもと法要が厳かに行われ、読経の声が会場いっ

ぱいに鳴り響いた。

続いて、神田門主、杜多教区本部長、武覚超一隅を照らす運動副理事長、横山照泰同運動総本部長よりそれぞれ祝辞があった。その後、各支部から推薦された一隅を照らす運動の実践者十一名が杜多教区本部長より表彰された。

第二部では、上田紀行東京工業大学教授による「よき種をまく仏教」と題した講演が行われた。上田教授の冗談



を交えた講演に、会場では時折笑いが起こっていた。

最後に、關口晃成教区副本部長より閉会の挨拶で今大会は幕を閉じた。

神奈川大会

神奈川教区本部（溝江光運教区本部長）では、平成二十六年六月十三日に神奈川県秦野市の秦野市文化会館を会場に、神奈川教区一隅を照らす運動推

進大会を開催し、檀信徒約五百名が参加した。

はじめに、溝江教区本部長御導師のもと東日本大震災物故者慰霊法要があり、参加者全員で般若心経をお唱えした。その後、溝江教区本部長より開会の挨拶、続いて横山照泰一隅を照らす運動総本部長より祝辞があった。

また、土屋慈悲大会副実行委員長より第一世天台座主「修禪大師義真尊者について」と題して一隅法話があった。今大会の講演は、多田孝文神奈川教



務局へ寄託された。

兵庫大会

兵庫教区本部(雲井明善教区本部長)では、平成二十六年六月十九日に兵庫県多可町の多可町文化会館ベルデューホールを会場に、第四十五回兵庫教区檀信徒総会並びに一隅を照らす運動推進大会を開催し、檀信徒ら約三百名が参加した。



区大聖院住職が「意(こころ) ゆたかに」と題して講演された。多田師は「ゆたかとは、強く大きくきくなどの意味があるが、物質をゆたかにするのは有限だが、心をゆたかにする事は無限に出来る。自分の心を磨いてゆたかにし、それを次世代の若者にも指導して欲しい」と強く語られた。

最後に、今大会の参加者より多額の浄財が、一隅を照らす運動地球救援事



はじめに、雲井教区本部長御導師のもとに法楽、挨拶があり、続いて、木ノ下寂俊一隅を照らす運動理事長、國岡恵心天台宗宗議会議員より祝辞が述べられた。

檀信徒総会の後、推進大会が行われ、まず、一隅を照らす運動実践者三名による実践の発表があり、その後、実践者六名に木ノ下理事長より総本部長賞の表彰が行われた。



また、兵庫県立歴史博物館学芸課の堀田浩之氏による「黒田官兵衛と姫路・はりまの新時代」と題した講演が行われた。地元兵庫県の歴史をもとにした堀田氏の話に、参加者は熱心に聞き入っていた。

北陸大会

北陸教区本部(天谷良永教区本部長)では、平成二十六年六月二十二日に石川県珠洲市のラポルトすずを会場に、



北陸教区一隅を照らす運動推進大会を開催し、約五百名の参加者が集まった。

開会式の後、岩尾照尚天台宗宗議会議員を導師に他宗派の僧侶の方々と合同で歎仏会法要があり、続いて北陸教区の僧侶の方々による大般若転読法要が厳修された。その後、横山照泰一隅を照らす運動総本部長より祝辞が述べられた。

次に、馬頭琴の岩尾師、ウッドベースの山田泰雲師(臨濟宗)、ピアノの



細川里美師（曹洞宗）の三名で構成された和尚バンドによる演奏が行われた。休憩を挟み、馬頭琴奏者YILAN A（イラナ）氏による馬頭琴の演奏とオルティンドーの歌唱が行われた。オルティンドーとはモンゴルの民謡で、その歌唱法は世界無形文化遺産にも登録されている。

参加者はオルティンドーの歌声の大きさに驚きつつも、普段聞き慣れない歌声や馬頭琴の演奏に聞き入っていた。最後に、当日集まった浄財が天谷教区本部長から横山総本部長に寄託され、大会は幕を閉じた。

一隅を照らす運動ニュース

中国・内モンゴル植林ツアーへ参加

平成二十六年五月六日から十日までの日程で、NPO法人「草原の風」主催の「第十一回内モンゴル植林ツアー」が行われ、天台宗から十二名が参加した。

今回も昨年同様に、砂漠緑化の大切さを知ってもらおうと、宗門の比叡山高校と駒込高校にも参加を呼び掛け、高校生四名と引率教諭一名がツアーに参加した。



第十一回のツアー参加者二十名は、中華人民共和国の首都北京から西に千キロの内モンゴル自治区ウーシン旗での植林活動を行い、現地の内モンゴル師範大学の大学生等との交流を行った。一日目の七日は朝から植林地に向かい、長さ二メートルほど柳の木を約二千本、植林した。集まった人々は約八十名。中には、地元の大学生も含まれていた。

現場には、近代的な機器は一切なく、大きなスコップがあるのみで、高さ約二メートルの柳を植えるのに深さ八十センチ程の穴を掘って埋めるという原始的な方法であった。

その後、志井浩順一隅を照らす運動総本部次長から植林活動支援金として三十万円の目録を植林事務局責任者スチント氏へ手渡した。

二日目の八日も前日と同じ砂漠地帯において植林活動を行った。日本からの参加者と現地の参加者がグループに分かれ、主に松の木を植林し、植林活動や食事を通して交流を深めた。

今回は二日間とも天候に恵まれ、暑い中での植林作業になったが、約一万本の木を植林することができた。

「一隅を照らす運動」

フェイスブックページを開設

平成二十六年五月に、「一隅を照らす運動」FACEBOOKページを開設いたしました。一隅を照らす運動の様々な活動をご紹介します。

<https://www.facebook.com/ichiguwoterasuundo>

よりご覧下さい。

◆ 「一隅を照らす運動」

支部長委嘱状伝達式を開催

平成二十六年六月六日滋賀院門跡において、第一期住職任命辞令親授式が



執り行われ、二十一名の新住職が出席し、座主猊下より住職任命辞令が授けられた。

◆ また、同日天台宗務庁応接室において、住職就任にともなう「一隅を照らす運動」支部長の委嘱状伝達式があり、木ノ下寂俊理事長より委嘱状が手渡された。

各支部長においては、各寺院を活動の拠点として、一隅を照らす運動を檀信徒や地域社会に密着した運動として推進していただいている。

◆ 「一隅を照らす運動」理事会を開催

平成二十六年六月二十六日、天台宗務庁（滋賀県大津市坂本）において平成二十六年第一回「一隅を照らす運動」理事会が開催され、平成二十五年一隅を照らす運動の事業報告、各会計の決算等が審議・承認された。

◆ また、今回の理事会では、任期満了等による役員改選があり、会長、顧問、理事などの新任、再任が承認された。会長には森川宏映師（延暦寺一山真藏院住職）が推薦され、全会一致で承認を受け、引き続きご就任いただくことになった。



◆ 国連UNHCR協会と

日本ユニセフ協会へ支援金寄託

平成二十六年八月四日、比叡山宗教サミット二十七周年『世界平和祈りの集い』（比叡山延暦寺）が開催され、併せて行われた世界平和祈願法要の出席者を前に、国連UNHCR協会への



支援金寄託式が行われた。

今回は情勢の不安定なシリアの難民救済活動への支援として、木ノ下寂俊一隅を照らす運動理事長より檜森隆伸国連UNHCR協会事務局長へ百万円が目録が贈呈された。

また、比叡山宗教サミット式典に先立ち、日本ユニセフ協会への募金寄託式が行われた。この募金は毎年八月に行われている「天台青少年比叡山の集

い」に参加したリーダーと研修生の小中学生が出し合った募金と、全国宗徒から寄せられた浄財を合わせたもので、総額は三百万円。

寄託式では、天台青少年比叡山の集い参加研修生の代表より森川宏映一隅を照らす運動会長へ目録が手渡され、引き続き森川会長から早水研日本ユニセフ協会専務理事に目録が手渡された。



切手・葉書を募集中

一隅を照らす運動総本部では、未使用・使用済みの切手や葉書を募集しております。寄せられた切手は、社会福祉法人武蔵野会（東京都八王子市）に、葉書は、認定NPO法人チャイルド・ファンド・ジャパン（東京都杉並区）を通じて社会福祉や海外の子どもたちのために有効に活用されています。

〈募集のしるし〉

○未使用・使用済みの切手

切手の周り5mm〜1cm程度の余白を残して、封筒や葉書の紙ごとハサミで切り取ります。消印が鮮明であれば消印部分も一緒に切り取ってください。外国切手は別に分けてください。

○未使用・書き損じの葉書（年賀状も含む）

収集は自宅で、職場で、学校で、仲間同士で気軽に取り組むことができ、一隅を照らす身近な実践活動の一つです。集まりましたら、一隅を照らす運動総本部までお送りください。

※なお、昨今のプリペイドカードを取り巻く市場環境変化を考慮した結果、使用済みプリペイドカードの募集はございません。皆様のご理解ご協力をよろしくお願いいたします。